

写真文化首都「写真の町」東川町 地場産木材を使用した 東川小学校・地域交流センター完成

東川町都市建設課 課長 高木 雅人



■建設の経緯

現校舎は昭和34年度の第1期建設工事に始まり、増改築を繰り返し現在に至ります。

平成20年7月に東川小学校等建設検討委員会が設置され、アンケート調査や先進地視察等を行い、全面移転すること、施設は地域交流センターを併設する複合施設とすることを決定し、平成23年3月に北海道大学工学研究院都市地域デザイン学研究室の協力により、東川小学校等基本計画が策定されました。

平成23年9月、東川小学校等実施設計委託業務プロポーザル審査委員会が行なわれ受託候補者を決定し実施設計を進め、平成24年11月工事着工、平成26年3月に完成となりました。

■特色

建設地は約4ヘクタールの土地で、隣接して幼稚園と保育所を統合した東川町幼児センターがあり、周辺一体が東川の田園風景にマッチする文教ゾーンとして一画を形成しています。

小学校は地域開放及び避難所機能を備え、併設される地域交流センターには学童保育施設、交流プラザ、多目的ホール等が配置されており、延べ床面積が約1.1万㎡で、東西に270mある巨大な建築物となっています。建物は、①教室群、②地域開放ゾーン、③地域交流施設の3つのゾーン分けを行い、構造もRC、



SRC、S、Wを様々な形で組み込み耐久性、経済性に配慮をしております。使用材料も地産地消に努め、東川町産のシラカバのフローリングと壁材、カラマツの集成大梁と複合アルミサッシの採用、家具等は木工の町として町内木工業者が制作したものが数多く配置されています。



(交流センター (交流プラザ))



(交流センター (学童活動室))



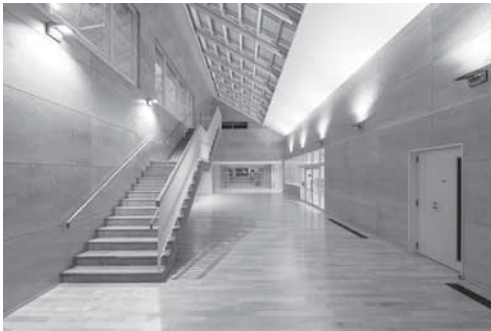
(交流プラザ内アート, 意心帰 (安田侃作))



(交流センター (多目的))



(交流プラザ内アート)



(体育館前の内部のようす)



(体育館)

外構工事については新東川小学校開校（10月）にあわせて現在整備中で、併せて周辺に整備される特定地区公園（野球場，サッカー場，多目的広場，プレイパーク等々），及び体験農園，果樹公園等の公園施設が平成26年秋までの完成を目指して整備を進めています。

■その他の取組み

平成26年10月からの新校舎の利用開始に向けて、子供たちの学習机・椅子等を木製で制作することとし、現在、町内家具業者の協力を得て製作をしているところです。

また、建物を含め、外部の公園等を利用した東川らしい教育を実践するため、教育関係者を中心に様々な関係者の力によって、現在教育実践プランを検討しており、創造性豊かな、たくましい子供たちが育み、強いては郷土を愛する人づくりに繋がり、町の将来にも寄与するものと期待しています。

また、小学校区内部にはプロポーザル方式で採用した町内作家5作品のアートワーク（木製品）が設置されており、文化的芸術的な空間を作り出し温かみの溢れる施設となっています。